

佳作

つばめがすだつたよ

埼玉県伊奈町立小針小学校二年 米川 諒

七月ははじめのある日、ぼくのいえのげんかんに二ひきのつばめがやってきました。二ひきのつばめは、げんかんのよこのかべの上のほうに、すをつくりはじめました。よく見ていると、くちばしになにかをはさみながら、ぼくのいえをなん回もいったりきたりしています。くちばしに、木やわらやどろをはさるんではこんでいました。そして、おわんのようなりっぱなすを一週間でつくりました。

ぼくは、つばめをはじめて見て、とてもかわいいと思いました。そして、おとうさんといっしょに本とパソコンをつかってしらべました。そしたら、つばめは、はるになるとおい南のくからとんできて、すをつくってこどもをうむことがわかりました。ぼくのいえにできたつばめのすにも、かわいい赤ちゃんがあまれるのかなと、とてもたのしみになりました。

だつを見て、とてもすごいと思いました。そして、ぼくも大きくなったら、つばめみたいにおくにおくいてみたいと思いました。

つばめは、またらい年も同じすにもどってくるそうです。ぼくは、らい年もまたつばめのひなが見れたらうれしいです。そして、らい年もひながすだつたのをみまもりたいと思います。

した。

ぼくは、まい日つばめのすをかんさつしました。そしてある日、すの中にひながうまれていました。さいしよは、二ひきだったけれど、ぜんぶで四ひきの赤ちゃんがうまれました。そして、おかあさんつばめとおとうさんつばめが、なん回もなん回もエサをはこんでいました。さいしよは、はい色だったひなたちは、だんだんちよとずつ大きく、くろくなつていきました。

ある日、一ひきのひながすからじめんにおちていました。まだとべないので、あついじめんの上でうごけなくなつていてかわいそうでした。ぼくは、おとうさんといっしょに、ひなをすの中にもどしてあげました。そして、またおちてもけがをしないように、すの下にかごをつけました。うんちをいっぱいするのでそうじがたいへんでした。

八月に入つてすぐ、一ひきのひなが、ちかくのやねにとんでいるのを見つけました。ぼくはびっくりしました。そして、つぎの日には、四ひきぜんぶがすからとびたつていきました。ぶじにぜんぶのひながすだつていけて、とてもうれしかったです。

ぼくは、つばめがうまれてから、大きくなつてす